

避難に関する情報

自然災害の発生のおそれがあるときに発令し、避難等と呼びかけます。避難に関する言葉の意味をよく理解して、自らの身の安全を守りましょう。

警戒レベル3

高齢者等避難開始

今後、避難指示が発令される可能性が高いときに、避難準備を促すものです。

次に該当する方は、避難を開始してください。

- ・お年寄りの方、体の不自由な方、小さい子どもがいらっしゃる方など、避難に時間のかかる方と、その避難を支援する方

なお、避難場所への避難が困難な場合は、近くの安全な場所に避難してください。それ以外の方は、気象情報に注意し、危険だと思ったら早めに避難をしてください。

警戒レベル4

避難指示

災害によって被害が予想される地域の住民に対して、避難を求めるものです。

速やかに避難を開始してください。外が危険な場合は、屋内の高いところへ避難してください。

警戒レベル5

緊急安全確保

住民に対し、避難指示よりも強く避難を求めるものです。災害が発生している、もしくは発生する恐れが非常に高いと判断されたときに発令するものです。

緊急に避難してください。外が危険な場合は、屋内の高いところに緊急に避難してください。

毎年6月は「土砂災害防止月間」です

初夏から秋にかけては、台風や前線の影響で、大雨、洪水、暴風などによる自然災害が発生しやすい季節です。災害から自らの命を守るために日ごろから災害に対する備えを行い、災害時は気象庁などが発表する防災気象情報を有効に活用し、早め早めの防災行動をとるようにしましょう。

雨量の計測と土砂災害の目安

雨量は、計量カップ等で自分で測ることもできます。

1時間の雨量が30mm
※(計量カップ等で3cm溜まる)
今後も続くようなら要注意！

連続雨量が120mm
※(計量カップ等から溢れる)
土砂災害の危険性が高まっている目安！

土砂災害の基礎知識

土砂災害は、大雨や地震が引き金となって発生します。その前触れとして次のような前兆現象があります。役場が把握できていない場合もあります。いつもと違うと感じた場合は、できるだけ早く周りの人と安全な場所へ避難するとともに区長へご連絡をお願いします！

がけ崩れ

急な斜面で突発的に起こり、瞬時に崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。

前触れ

- ・がけから水が湧き出る
- ・がけから小石がぼらぼら落下
- ・湧水が止まる、濁る
- ・亀裂の発生
- ・地鳴りや木根のちぎれる音、岩の割れる音などがする

土石流

谷筋で起きるので、土砂などが水といっしょに流れ下り、スピードが速く大きな破壊力を持っています。

前触れ

- ・山鳴り・地鳴り
- ・流木発生・溪流内の転石の音
- ・水位の急激な低下
- ・ものの腐ったような臭い(腐葉土、下肥の臭い)がする

地すべり

一度に広い範囲の地盤が動き出すので、速度は緩やかですが、発生すると大きな被害をもたらします。

前触れ

- ・地面にひび割れができる
- ・井戸や沢の水が濁る
- ・がけや斜面から水がふき出す
- ・樹木が傾いたり倒れたりする

熱中症の危険性をお知らせ

熱中症警戒アラート運用開始

環境省と気象庁は、熱中症予防対策に効果的な情報発信として、「熱中症警戒アラート」が全国で運用されています。

発表方法

高温注意情報の発表基準をこれまでの気温から暑さ指数(WBGT)に換え、「熱中症アラート(試行)」として情報が発表されます。

熱中症アラートが発表されたら・・・

町では、熱中症警戒アラートが発表された場合、防災行政無線やみよたメール配信サービス、町公式SNSにおいて、皆さまにお知らせします。

また、「環境省熱中症予防サイト」でも確認することができます。

発表の基準

県内のどこかの地点で暑さ指数(WBGT)が33以上と予測した場合に発表されます(長野県内は29観測地点)。

発表の単位

県単位で発表されます。

熱中症警戒アラート発表時の予防行動のポイント

- 気温・湿度・暑さ指数を確認しましょう**
・身の回りの気温や湿度、暑さ指数を測定しましょう。
- 熱中症リスクが高い方に声をかけましょう**
・熱中症になりやすい高齢者、子ども、障がい者の皆さまは十分に注意しましょう。
・「三密(密集、密接、密閉)」を避けつつ、周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。
- 外での運動や活動は中止、延期しましょう**
・不要不急の外出はできるだけ避けましょう。
・エアコンなどが設置されていない屋内外での運動や活動などは原則中止や延期をしてください。

雨の強さと降り方

一時間雨量	10～20mm未満	20～30mm未満	30～50mm未満	50～80mm未満	80mm以上
イメージ					
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返した様に降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感で恐怖を感じる
人への影響	足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の場所が必要	山間部では土石流などの土砂災害が起きる危険が高くなる	雨による大規模災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

問い合わせ先 総務課情報防災係 (32) 3111